



たいよう



葵が丘小学校 ことばの教室便り

平成 29年 11月 28日号

暦の上ではすでに冬。夜が長くなり年末・年始と家族で過ごす時間が増える時です。いつもより、子供たちの声に耳を傾け、ゆっくりとあれこれおしゃべりできるチャンスです。絵本を一緒に読んだり、トランプやカルタなどをしたりして楽しみましょう。クリスマス会やお正月の行事など親戚や知人が集まる機会も多い時です。気持ちのよい挨拶を大人がまず心掛けたいものです。

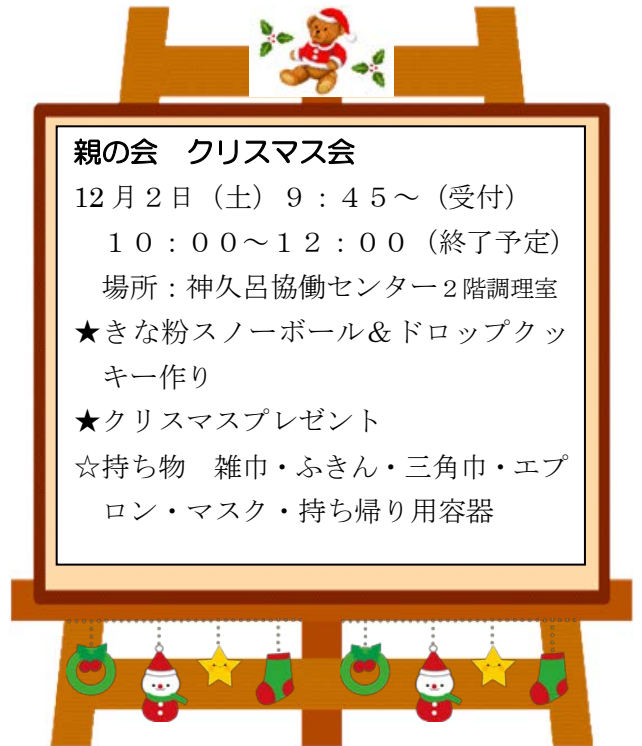
今年やってよかったことやできるようになったことなどを振り返り、新しい年を迎えましょう。

12・1月の予定

- 12月 2日(土) 親の会クリスマス会
- 6日(水) 市の審査会のため
全組指導中止
- 13日(水) 研修のため午前中、
全組指導中止
- 20日(水) ことばの教室 指導終了
- 21日(木) 相談日
- 22日(金) 葵が丘小終業式
- 1月 9日(火) 葵が丘小始業式 相談日
- 10日(水) ことばの教室 指導開始

親の会 クリスマス会

- 12月2日(土) 9:45~(受付)
- 10:00~12:00(終了予定)
- 場所: 神久呂協働センター2階調理室
- ★きな粉スノーボール&ドロップクッキー作り
- ★クリスマスプレゼント
- ☆持ち物 雑巾・ふきん・三角巾・エプロン・マスク・持ち帰り用容器



～ことばの教室担当者研修会に参加して～

11月に「こどものための こんな絵本 こんなゲーム」というテーマの研修会がありました。研修会で紹介されて心に残ったことを少しお伝えします。

読み聞かせは心の脳に届く

人間の脳を三段重ねの鏡餅に例えると、一番下のおもちが「身体を司る脳」、二段目のお餅が「心を司る脳」、そして一番上に乗るだいたい(みかん)が「知力や言葉を司る脳」になります。「心を司る脳」とは、喜怒哀楽を感じ、わが身をたくましく生かしていく役割をしている大脳辺縁系のことです。読み聞かせはその「心の脳」に届いているということです。子供が小さなうちに、「心の脳」にしっかり働きかけるということは、健全な「心の脳」を育てることにつながります。脳は、しっかり使わないと(働かせないと)うまく働くようにはなってくれません。読み聞かせで、「心の脳」に働きかけることは、こわい、悲しいがしっかり分かる、うれしい、楽しいがしっかり分かる子供をつくるということなのです。

(裏面へ続く)

「心の脳」とは何？

ふだんの私たちの行動の基本は、「好きなことはやる」「きれいなこと、いやなことはやらない。」ではないでしょうか。この行動の選び方は、理性的に考えて行動する以前のものです。人間も含め、動物には理性にとらわれない行動の原則があって、それを司っているのが心の脳、大脳辺縁系です。

自分たちが生き残るために「こわい！いやだ！」というのは、とても重要な感情です。ある行動をして、「こわい！」「いやだ！」という感情体験をすると、次からは絶対にその行動をやらなくなるのです。反対に「楽しい」「うれしい」は、もう一度同じ行動を繰り返そうという動機づけになり、私たちに積極的にその行動をとらせるようになります。だから、子供を前向きにやらせようと思うならほめてあげること、それが大事です。いくらしかっても子供は絶対にやろうとはしません。ぜひ、たくさんほめてあげましょう。

テレビ・ビデオ・スマホなどの電子メディアは1日1時間以内

5・6歳までに脳は、急激に発達します。この大切な時期にテレビ・ビデオを見続けるということは「見る・聞く・嗅ぐ・触る・味わう」の五感の発達を損なうこととなります。特に3歳からは外遊びを経験させ、人と体を使って遊ぶことを心掛けましょう。

最近では、ゲームというスマホやDSの画面を思い浮かべます。画面を見ながら、ボタンを押したり、指先でフリックすることばかりでなく、順番を待ったり、相手の様子をうかがったりすることは子供の心の成長につながります。トランプを使った遊びや坊主めくり、すごろくなども楽しみましょう。カルタの読み札を交互に読んだり、枚数を少なくして、絵札を裏返しにしたりして、いろいろ工夫してみると楽しめるかもしれません。



「あいうえおかるた」
「あっちゃんあがつくかるた」



「百人一首で坊主めくり」
「にじいろのへび」
「はらぺこあおむしトランプ」



「しりとりぐるぐるカード」
カードが円形に並び、しりとりを繰り返して続けられます。